現在長野公民館のあるところは俗に横町といい、清水の方面から斉内川を渡って長野に入る重要な道路だった。ここに昔からまつられている荒神さまの神社があり、その霊験のあらたかなことで知られていた。この神社の前は清水からの馬草刈の農民も、馬から降りて通るほどであった。もともとこの神社は修験行者の信奉した神で、三宝荒神の開祖と伝えられている役の小角（おずぬ）が葛城山で籠山修業したとき、行者の前に現れて「我は悪人を法罰するが故に廃乱荒神と称し、又三方を護衛するが故に三方荒神と号す、九万八千の夜叉（やしゃ）眷属あり」と神自からいわれたとされ、民間の絶大な信仰を集めたと伝えられている。横町の荒神様も広く荒神様、火の神様、舟の神様などとして信奉され、特に不浄を忌みきらうと信じられている。享保三年（一七一八）七月七日の棟札が今も宝蔵されており、当時祭主肝煎佐々木理助と書きとめられている。藩政時代は長野を中心とする船頭や、荒神様に対する祈願が多かった。長野ささらも、慈恩寺や荒神様をよりどころとして伝えられた芸能と伝えられている。